

ボッチャってなんや?!

— そこから始まったパラリンピックへの挑戦 —

吉見 成生さん

(社会学科4回生)

ボッチャBC2クラス
日本ランキング8位



僕が高校3年生だった4年前の夏、日本はオリンピック・パラリンピックが東京で開催されるかどうかで盛り上がっていました。スポーツ観戦が大好きな僕は「日本で開催になったら、どの競技を観に行こうかなあ…」と思いつつ、開催都市が決まる瞬間を見ていたのを覚えています。

東京でのオリンピック・パラリンピック開催が決まり、スポーツ熱の高まっている僕。高校では水泳をしていましたが、リハビリの一環で取り組んでいました。そこで、リハビリの先生に「面白そうなパラスポーツってありますか？ 大学に入ったら、違うスポーツにチャレンジしてみたいんです！」と相談しました。

「吉見くん、ボッチャって聞いたことある?」「なんですか、それ?」

先生が教えてくれたのは、今まで聞いたことがない競技。はじめは「ぼっちゃん」と聞き間違えたのかと思いました(笑)。ボッチャは、桃大生でも知らない人が圧倒的に多いはず。ボッチャについて、簡単に説明しますね。



吉見くんが解説!
ボッチャって?

ボッチャは、ヨーロッパで生まれた重度脳性麻痺のある人、もしくは同程度の四肢に重度の障がいのある人のために考案されたスポーツで、「**地上のカーリング**」とも呼ばれています。赤・青それぞれ6球ずつのカラーボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てて、ジャックボール(目標球)と呼ばれる白い球に、いかに近づけるかを競います。**体育館のカーリングをイメージしてください。昨年のリオ・パラリンピックでは団体で銀メダルを獲得しました。**

ボッチャを知った当日、リハビリ先の近くでボッチャの練習をしていると知り、見学に行きました。ボッチャを見て、「このスポーツ、面白そう!」「ただボールを投げるだけではない、頭を使うスポーツやな!」と思いました。「吉見くん、見てだけじゃなくて1回やってみる?」と声をかけてくださった方がいました。まだルールすら把握できていない僕。「白いボールに近づけるように、吉見くんはボールを投げるだけでいいやで!」

そう言われるがまま投げてみると、白いボールの近くに投げることができました。「すごい吉見くん!」「初めて投げて、これはなかなかできひんで!」と多くの人に言われたことを覚えています。当時は何がすごいのか、全くわかりませんでした。ただ、競技を始めて3年以上が経ち、ボッチャの経験のない人があのボールを投げたら、間違いなく驚きます(笑)。

「ボッチャって、パラリンピックの競技にもなっているスポーツ。吉見くんはセンスがあるから、7年後の東京パラリンピック、本気で目指してみない?」何かスポーツにチャレンジしたいと思っていた僕は、「東京パラリンピック、目指します!」と即答しました。ボッチャという名前を知ったその日に見学・体験できたこと。あの日がなければ、違うスポーツをしていたかもしれません。

僕が初めて試合に出たのは1回生のとき。まだボッチャを始めて4カ月でしたが、全国大会に出る予選会にチャレンジしました。対戦相手は小さい頃からボッチャをしていて、ユース日本代表にも選ばれている同世代の選手。「勝てるわけないやん! ポロ負けするわ!」と思っていましたが、結果は1点差負け。周りは「ボッチャを始めてすぐやのに健闘したね!」と言ってくれました。ただ、僕は悔しさでいっぱい、その日は眠れなかったほど。この敗戦で、僕のボッチャ魂に火がつかしました。



2016年度学生表彰式の様子

2回生はこの予選会を突破し、初めて全国大会に出ることができましたが、1勝もできず…。練習量も増やし、自分の中で1勝はできるという手応えがあっただけに、本当にショックでした。ただ、「来年こそは1勝してやる!」という気持ちにすぐ切り替え、練習時間・戦術の研究時間をさらに増やしました。

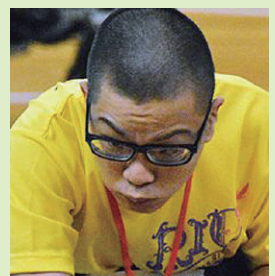
3回生でも全国大会に出ることができましたが、いくら練習しても去年全敗だった記憶が残っていました。「また1勝もできなかったらどうしよう…。」少しネガティブになる時期もありましたが、この日のために頑張ってきた自分を信じて大会に挑みました。小学生からボッチャを始めている人、パラリンピック出場経験のある人とも対戦しましたが、何とか勝つことができ、全国ベスト8に進むことができました。「努力は裏切らない」ことを実感した瞬間です。この実績を、桃大でも表彰していただきました。

東京パラリンピックに一步近づくキッカケに――

今年の全国大会は11月10日(金)～12日(日)に大阪・舞洲で開催。昨年、全国ベスト8に入り、今回、僕の全国大会予選会参加は免除。先日、その組み合わせ抽選会があったのですが、先ほどお話しした、1回生のとき、初めてのボッチャの試合で1点差で負けた、同世代の子と対決することが決まりました。公式戦での直接対決は、あの敗戦から1度もありません。普段は仲良く話す友達になりましたが、お互いライバル意識を持っているので、何とか勝てるように現在練習に励んでいます。

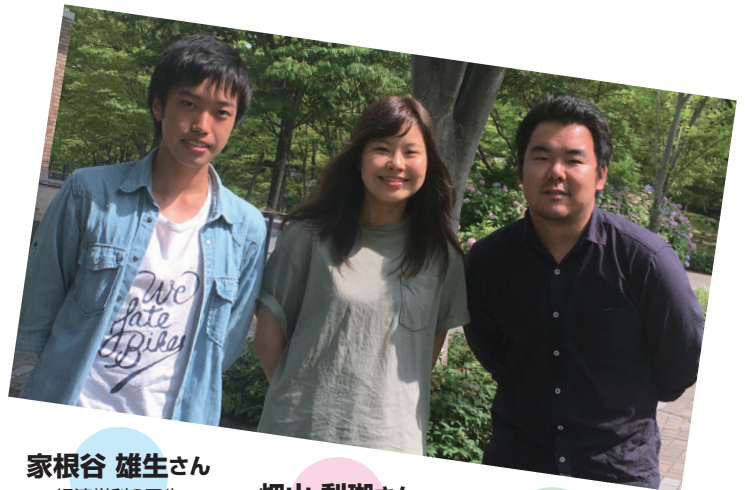
練習時間は、週3回・4時間。「激しい運動じゃないから、ラクじゃない?」と言われることもあるし、そう思う人も多いと思います。しかし、戦術を考えると、それを実行するための技術力・集中力もいるので、練習後は結構ヘトヘト(苦笑)。今年の目標は、昨年のベスト8を超えるベスト4に入ること。**ボッチャの全国大会は無料で観戦できるので、桃大生の皆さんに舞洲まで観にきてもらえると嬉しいです。**

僕の目標は、3年後の東京パラリンピックで、「桃大の卒業生」として出場し、メダルを獲得すること。仮にそれが叶わなかったとしても、僕はパラリンピック出場の夢を持ち続けます。ボッチャの魅力は、50歳・60歳になっても競技を続けることができること。ということは、あと8回はパラリンピックに出るチャンスがあるので、絶対にこの夢を諦めず、努力を続けていきます!



ボランティアで出会った、桃大生3人のおはなし。

ボランティア活動支援室は、ボランティアスタッフ(通称ボラスタ)の皆さんと一緒に、桃大のある、大阪府和泉市近隣地域で活動しています。今回、2回生で下宿をしているボラスタメンバー3人に、ボランティアについて話してもらいました。



家根谷 雄生さん

経済学科2回生
(和歌山県田辺市出身)

畑山 梨瑚さん

経済学科2回生
(北海道札幌市出身)

保田 昌樹さん

社会福祉学科2回生
(兵庫県豊岡市出身)

思い出に残っているボランティア活動について—

家根谷

大学近隣の和泉市のボランティアセンターを利用している人って、利用者・運営者の高齢化が課題と聞きました。まずは若い人たちにボランティアセンターの存在を知ってほしい！ そのために何かイベントをしよう！と、子ども達がスライム作りやプラ板作りで遊ぶ「ももやまキッズランド」という催し物を僕達が企画しました。最初は参加してくださる方が数組だったけど、どんどんその数も増えてきているので、本当にやりがいを感じます。

保田

7月は30組以上の親子が参加してくれたもんね。僕は「さかいまつりの大パレード」かな。ポルトガルの南蛮衣装を着て、沿道の皆さんに手を振ったり、演技をしてパレードに参加します。笑顔で手を振り返してくれるので、ちょっと有名人になった気分も味わえるボランティアで、なかなかこんな体験はできないと思う！ 来月参加するので、去年以上に皆さん笑顔を届けたいと思っています！

畑山

私はボランティア活動で、色々な人と関わることが大好き！ なかでも、目が見えなくて、耳も聞こえない盲ろう者の方とコミュニケーションを取る機会があったことが印象に残っています。始めはどう接したらいいのかわかりませんでしたが、指文字でコミュニケーションを取ることができるんです。この出会いがキッカケで、指文字や手話を覚えるようになりました。

家根谷

ボランティアって聞くと、「真面目」とか「かた苦しい」ってイメージを桃大生のみんなが持っていると感じるよね。実際直接そう言われることもある(苦笑)。みんなのその先入観が少しでもなくなればな…と思いながら、活動しています。ボランティア、やってみて楽しいよね？

保田

楽しいけど、なかなか言葉では伝わりにくいのが事実…。ただ、ボランティアに参加して、「自分に合わない」と思う人もいて当たり前だと思うな。そのときはすぐに違うものにチャレンジしてほしい。ボランティアの「食わず嫌い」だけはやめてほしいな。まず1回、自分が少しでも興味のある分野のボランティアに参加してほしいです。例えば音楽が好きな人なら、音楽フェスのボランティアとかね。



ももやまキッズランドでの活動



さかいまつりの大パレード

熊本を忘れないこと。そして、発信し続けること—

家根谷

畑山さんは8月に熊本地震のボランティアに1カ月間行ってきたんだよね？ これで熊本に行くのは何回目だった？ 4回目ぐらいだったっけ？

畑山

うん、この夏で5回目になるかな？ 1年4カ月前に熊本地震が発生したとき、テレビで毎日熊本が取り上げられているけど、どこか実感が無い。何か力になりたいんだけど、何をしたらいいかわからない…。そのとき、大学から熊本地震復興支援ボランティアのお知らせが届いたんだ。困ってる人たちの力になりたい！って思いだけで応募して、参加したことを覚えているよ。

メディアが取りあげない＝復興じゃない。

保田

関西で生活していると、最近熊本の情報があまり入ってこないよね。だから、もう熊本は復興したと思っている人もきっと多いと思う。僕や家根谷くんは、畑山さんや他のボラスタメンバーから熊本の様子を聞いているから、復興まではまだ時間がかかるって知っていたけど…。

畑山

テレビやラジオが取りあげない＝復興したと勘違いしてほしくない。関西のメディアでも、熊本地震のことをもっと取り上げるべきだと思う！**1カ月熊本にいて、まだ瓦礫が撤去されていないところもあれば、被災した人たちの心の傷も癒えていないと感じる瞬間もあったよ。**復興にはまだまだ時間がかかる。九州ではよく熊本のことがメディアで取り上げられているんだけど、関西に戻ってくると本当に取り上げられていない…。みんなが熊本が復興したと感じるのが自然だと思うよ。

家根谷

そういえばこの前、熊本城の修復に時間がかかるニュースを見たな…。そのとき、熊本の都心部は復興してるって言ってた。それを見た人のなかには、「熊本城だけ復興に時間がかかるんだ。」って感じる人もきっといるよね。**仮設住宅で生活している人たちがまだ多くいること。今もボランティアの力が必要なことを、もっと伝えてほしいよね。**

畑山

本当にそう思う。今の私にできることは、**桃大生に熊本の現状を伝えること。**そして、関西から継続して熊本を支援できる方法はないか、大阪に戻ってきてから考えるようになりました。熊本の「今」を発信し続ける。それが私の役目だと思うようになったよ。

保田

今回畑山さんは長期間熊本でボランティア活動してきたけど、ボラスタの仲間6人も8月の熊本ボランティアに参加したので、色々な情報を聞いて、僕たちも関西でできることを考えて、実行していかないとね。秋学期に実現させよう！



熊本でのボランティア活動

「さいごに」

家根谷

ボランティアの経験がない人は、「自分にできるのかな?」という不安も、きっとあると思います。僕も始めは自分にできるのか不安でしたが、活動に参加すればするほど、自分の視野も広がります。**秋学期、桃大生の皆さんにボランティアの一步を踏み出してもらえると嬉しいです。**保田くんも言っていたように、ボランティアの「食わず嫌い」はやめてほしいな。

保田

桃大では色々なボランティアが用意されているし、場合によっては自分達でボランティア活動を作ることでもできる。ただ、初めてのボランティアが自分の興味のないものだ、絶対続かないと思います。**皆さんの好きなものを、ボランティアの出発点にしてほしいです。**そこから徐々に、色々な分野のボランティアに参加すると、自分の成長につながるはずですよ！

畑山

ボランティアは、**自分が変わるチャンスが眠っています。**私は熊本のボランティアの活動を通して、具体的な自分の夢も見つかりました。ボランティアに参加しなければ出会えなかった仲間もたくさんできました。1人でも多くの桃大生が、ボランティア活動に参加してくれると嬉しいです。